

●ポスターセッション (P-水環境-1~54)

ポスターセッション (P-水環境-奇数番号)

本セッションの発表は 53 件あった。これら報告の多くは更なる発展が望めるものであり、今後の研究の継続が期待された。本報告は、発表初日(奇数番号)と2日目(偶数番号)に分けて行う。

(P-水環境-奇数番号) 本セッションは幅広い分野から 26 件の発表があり、特定の分野に関心が集中するといった傾向はみられなかった。

奇数番号の発表 26 件の中には有害化学物質に関する報告が 8 件あった。内容は汚濁実態 (P-水環境-3, 33), 発生源 (5), リスク評価 (15, 35), 環境中における微量濃度推定のためのモデルの検証 (17), 汚濁の原因究明 (27), 残留農薬の濃度変化 (53) であった。

ほかに、富栄養化に関するものが 4 件 (13, 23, 45, 47), 有機物の挙動, 流出特性に関するものが 3 件 (9, 25, 29), 河川, 湧水中の無機イオンに関するものが 2 件 (1, 11), 水生植物根圏の微生物群集, 浄化効果に関するものが 3 件 (39, 41, 49), 港湾内の生態系復元に資する研究として 2 件 (31, 37) があつた。

また、河川流下に伴う自然的特徴の変化と人為活動の影響の定量化 (7), 農業用水管理が水循環に与える影響 (19), 漂流ブイによる湖流観測 (21), 河川堆積物の深度による窒素化合物と有機物変換に係わる因子 (51) についての研究報告があつた。

(名古屋市環境科学研究所・水質部 鎌田 敏幸)

(P-水環境-偶数番号) 偶数番号の発表は 27 件あり、水質, 水質と生物の関係, 水質改善に関する報告が多かつた。

水環境のリンと窒素に関する発表として、事業排水場 (6) や畑地 (14) からの負荷, 降雨時の河川から (16) 湖沼への負荷 (18), 入江の潮止め池への流入出量 (20), 湾集水域への負荷量推定法 (2), 河川底質の汚染と浄化 (12), 汽水湖での循環 (36) に関する報告があつた。有機汚濁に関する研究として、ため池の汚濁状況 (26), 事業排水場からの排出 (6), 都市近郊河川の負荷量と浄化対策 (10) に関する報告があつた。また、工場排水周辺の内分泌攪乱物質 (4), 水田からの除草剤の流出 (46), 山地渓流水の酸性化 (8), 湖水の白濁現象 (24) といった水環境の水質に関する報告があつた。

水質と生物の関係に関する研究として、河口域の生物相と土砂流入 (32), 藻類の表面電化と pH・電解質 (30), メダカ胚形成と重金属汚染 (44), 底生魚と底質中の PCBs (38), バクテリオファージの分布・遺伝子変異と水質 (54), ガンモクの成育と水質・底質 (28) に関する研究があつた。

水質改善に関する研究として、発泡セラミックスによる窒素とリン除去 (50), 省エネルギー酸素供給装置による底質改善 (22), ポーラスコンクリートによる鉛の吸着除去 (48), 抽水植物の BOD・リン・窒素除去能とメタン・亜酸化窒素発生抑制能 (52) に関する報告があつた。

さらに、海域の大腸菌群数試験法に対する留意点 (42), ウキクサの根圏に生息する未培養・難培養性微生物の分離培養 (40), 近海の水温の長期変動 (34) に関する報告があつた。

(人間環境大学・人間環境学部 長井 正博)